

近畿支部研修会 印象記

森川 演夫

平成23年度 近畿支部・大阪市消防局 合同研修会・見学会「放射線災害にそなえて」が、2月28日に大阪市消防局において開催された。近畿支部では、「放射線取扱主任者は自施設のみ放射線管理に専念するだけでなく、社会貢献することも大切な仕事である。」と以前から提唱されている。一昨年には、日本アイソトープ協会と大阪府との間で「放射性物質関係災害等に関する協定書」も結ばれ、消防署とは平常時より相互に協力し、災害発生時に補完しあえるような体制を取れるようになった。今回の近畿支部と大阪市消防局との合同の研修会は、初めての試みで、まず第一歩を踏み出した記念すべき研修会である。また、福島第一原子力発電所の事故からほぼ1年が経ち、近畿地方では少し気も緩みそうなか、再度、気を引き締め直すという意味でもタイムリーな研修会でもあった。一方、本研修会は、消防隊員への教育という観点から、日本アイソトープ協会会員に加え、100名を超える大阪市の消防隊員の聴講もあり、現場で活動される隊員として熱心に聴いておられた（写真1）。

〔1〕 特別講演

福島原発事故後の放射線防護対策

— ICRP 2007年勧告に準じて—

講師：佐々木康人氏（日本アイソトープ協会常務理事）

講演では、International Commission on Radiological Protection（国際放射線防護委員会、

ICRP）が発足した歴史的経緯から始まり、United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation（原子放射線の影響に関する国連科学委員会、UNSCEAR）の役割、並びに放射線（能）や被ばくに関する基本的な説明が行われた。現場で活動する消防隊員への教育活動として大切なことと思われる。

〔2〕 講演

①放射線物質の利用・輸送と事件事例対応

— 消防署からの質問に答えて—

講師：木村俊夫氏（日本アイソトープ協会）

国内で放射性同位元素を販売している日本アイソトープ協会では、放射性同位元素の運搬中の種々の不具合にも対応されている。本講演では、消防隊向けに工業用、医療用、研究用等そ



写真1 研修会の様子

れぞれの利用分野ごとに分類した密封・非密封の放射性同位元素の説明並びに放射性物質を運搬するための規則類について説明された。消防隊員は、実際の事故現場で救急救命等の対応に携わる業務であることから、放射性物質の輸送箱の耐性や最も適した測定機器の取扱い方等について、熱心に聴かれるとともに種々の質問もされていた。

②大阪市消防局 N 災害の出動態勢について

講師：大塚通寛氏（大阪市消防局西特別救助隊長）

平成 19 年に消防法が改正され、消防計画に NBCR（Nuclear, Biological, Chemical, Radioisotope）の災害に対する記載も求められるようになった。さらに、原発事故の影響を受けて、大阪市も N(R) 災害発生時対応に熱心に取り組んでおられ、災害発生時の消防隊の出動体制や装備機器について説明された。

N(R) 災害が発生した際の消防隊の活動に対し、放射線取扱主任者が効果的に協力ができるための方策を立てていく必要がある。

③近畿支部における放射線災害に対する取り組み（神戸市消防局の場合）

講師：安岡由美氏（神戸薬科大学）

神戸薬科大学では、阪神淡路大震災の経験から、神戸市消防局とともに放射線、原子力災害発生時の緊急対応の訓練や消防隊への定期的な放射線教育に取り組んでおられる。本講演では、平成 21 年に行われた「放射性物質を運搬中の車両事故対応訓練」を挙げるとともに管理区域内での教育訓練の実例についても説明されていた。普段の放射線取扱主任者の業務は、管理区域内において放射線業務従事者が汚染しないように教育することにあるが、消防隊との訓練では、広域に放射性物質で汚染されてしまった場合を想定し、普段とは全く異なった発想による行動が必要な点等、色々と苦労話をされて

いた。

[3] 施設等見学

大阪市消防局の施設、「指令情報センター」を見学させていただいた。指令情報センターは、平成 20 年 3 月に稼動を開始し、国内では最も新しい装備であるとのことであった。広い室内には、36 枚の 50 インチ液晶画面が壁一面に貼り付けられており、通常 9 名で 24 時間体制で運営されている。

①大阪市内の消防用、救急用、広報用等の全車両の動向をオンタイムに把握できる

②火災や救急等の通報が入った場合、通報が発せられた場所を直ちに特定できる

③場所、目的に応じた緊急車両の出動を指示できる

④大阪市内の高層ビルに設置したカメラ（全 3 台）で大阪市全域を常時監視できる

⑤大災害発生時には、出動したヘリコプターから撮影した画像を映し出せる

等、正に大阪市民の安全を守る砦である感があった。

引き続き、全国の消防署 10 か所に配備されたうちの 1 台である特殊災害対応車両（RW29）



写真 2 RW29（左）とフレーム式除染シャワー（右）

主任者 コーナー

を見学させていただいた。NBC 災害発生時に活躍する車両で、災害現場に到着するや、車両内を陽圧に保ちながら外気からの汚染を遮断して、現場で災害に対処できる装備を備えている。また、装備の中には、消防隊員や負傷者を速やかに除染できるシャワー装置（講演でも紹介されたフレーム式除染シャワー）も備えられているという最新鋭の車両であった（写真 2）。個人的には、決して使う状況になって欲しくな

いが、いざというときには不可欠の車両である。

今回、初めて行われた合同の研修であったが、N(R) 災害に対し消防隊と放射線取扱主任者が協力して対応できるようになるには、地道な協力活動を継続し、更に相互理解を深めていくことが必要であろう。

(参天製薬(株))

ICRP Publ.96

放射線攻撃時の被ばくに対する公衆の防護

翻訳・発行 日本アイソトープ協会 【2011年4月発行】
B5判・98頁 定価 4,725円 会員割引価格 4,200円（消費税込）

放射線攻撃後に予想される緊急時シナリオは、放射線事故から生じうるものと多くの面で似ています。本書は、放射線緊急事態における被ばく防護措置に関する専門的な助言であり、様々な人々——災害初期対応の作業者と救助者、妊婦と乳児、子供、公衆——を被ばくから守る基本的な考え方、被ばく回避の段階的対策と判断規準、被ばく後の健康影響、飲料水・食品・日用品の汚染管理、被害者の治療などを含む総合的な内容となっています。各種規制のガイダンスレベルも多数掲載。放射線災害対応の全体像がわかる1冊です。



公益社団法人

日本アイソトープ協会

Japan Radioisotope Association

〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

- ◆ご注文はインターネットまたはFAXにてお願いいたします。
JRIA Book Shop : <http://www.bookpark.ne.jp/jria>
BookPark サービス : FAX (03) 5227-2060
- ◆書店でご注文の際は「発売所 丸善出版」とお申し付け下さい。

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

松田尚樹（委員長）、上養義朋、小野孝二、川辺 睦、鈴木朗史、桧垣正吾、古田悦子、矢鋪祐司